

感染症情報 6月13日～19日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1414例（堺市 71例）
②溶連菌感染症	609例（堺市 43例）
③ヘルパンギーナ	461例（堺市 47例）
④おたふくかぜ	309例（堺市 22例）
⑤咽頭結膜熱	167例（堺市 8例）

が報告された。

感染症は全体として前週から6%増加し、上位の順位は変わらず、第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位にヘルパンギーナが入った。溶連菌感染症は再び前週より微減、ヘルパンギーナは前週に引き続き、66%と大幅に増加した。1, 2歳児に多く、高熱とよだれ、口内の痛みのため、食欲が減退するが、熱は2, 3日で収まる。おたふくかぜも前週より29%増加し、潜伏期が2週間と長く、泉北でも3回目の流行を迎えた学校・園がある。髄膜炎の合併が5%程度と多く、1000人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）は12%減少したものの、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。手足口病を含めて例年暑くなると増加するので注意したい。はしかと風疹の報告はなかった。